稲（玄米）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.12, 0.13 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(3 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布（0.8L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.04, 0.16, 0.16 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、及び 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布（150 L/10a）したところ、散布後 13 注2)～28 日の最大残留量は 0.11, 0.132 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、及び 1.0%1 キロ粒剤を計 3 回散布（1kg/10a）したところ、散布後 13 注2)～28 日の最大残留量は 0.118, 0.176 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、及び 0.15%粉剤 DL を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 13 注2)～28 日の最大残留量は 0.12, 0.142 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、及び 0.5%粒剤を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 14～22 日の最大残留量は 0.72, 0.26 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、並びに 0.5%粉剤 DL を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.28, 2.75 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、並びに 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.18, 0.78 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用)、並びに 0.5%粒剤を計 3 回散布(4kg/10a)したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.17, 2.16 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈

液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.12, 1.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(3 例)において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布（0.8L/10a）したところ、散布後 14～28 日の最大残留量は 0.81, 2.57, 2.28 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

②だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布(150, 200L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、及び 0.5%H 粉剤 DL を計 4 回又は 3 回散布(4 kg/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は<0.01, <0.01 [注3] ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

③ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（播種前播種溝処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.002, 0.016 ppm であった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和)、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は<0.01, 0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（25L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.03, <0.01 ppm であった。

④かんしょ

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 9kg/10a、定植時作条処理土壌混和として 1 回用いたところ、散布後 104～116 日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑤てんさい

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 100 倍希釈液を計 1 回定植時苗床灌注（1L/冊）したところ、散布後 160～175 日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm であった。

てんさい（根部）を用いた作物残留試験(2 例)において、20.0%フロアブルの原液を 489mL/100,000 ペレット種子（種子コーティング）、16.0%水溶剤の 100 倍希釈液を計 1 回定植時苗床灌注（1L/冊）及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布（200, 500L/10a）したところ、散布後 14～30 日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6 kg/10 a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後 7～14 日の最大残留量は 0.016, 0.014 ppm であった。

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後 7～14 日の最大残留量は 0.84, 2.26 ppm であった。

だいこん(つまみ菜)を用いた作物残留試験(1 例)において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後 10 日の最大残留量は 0.48 ppm であった。

だいこん(間引き菜)を用いた作物残留試験(1 例)において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後 22 日の最大残留量は 0.14 ppm であった。

⑦キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.18, 0.16 ppm であった。

⑧レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.58, 1.33 ppm であった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

⑨ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として 1 回、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.05, 0.14 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 4 回散布（200, 150L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.09, 0.13 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑩トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布(250 L/10a)したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.23, 0.12 ppm であった。

⑪ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2 g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布(200, 150～200L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 1.21, 1.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑫なす

なす（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2 g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（162.5～200, 200L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.290, 0.379 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑬きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.695, 0.224 ppm であった。

⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.038, 0.012 ppm であった。

⑮すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2 g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.022, 0.011 ppm であった。

⑯温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.246, 0.086 ppm であった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 3.24, 1.09 ppm であった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 20 倍希釈液を 1 回樹幹散布(22.2, 13.3L/10a)及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布(666, 800L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.02, 0.08 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 20 倍希釈液を 1 回樹幹散布(22.2, 13.3L/10a)及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布(666, 800L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.74, 2.96 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑰夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（500L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.023, 0.292 ppm であった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（500L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.362, 2.18 ppm であった。

夏みかん(果実)[注4)]を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（500L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.118, 0.726 ppm であった。

⑱すだち(果実)

すだち（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布(500L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.297 ppm であった。

⑲かぼす(果実)

かぼす（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布(500L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.204 ppm であった。

⑳りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布(500L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.155, 0.042 ppm であった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（350. 400L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.15, 0.06 ppm であった。

㉑なし

なし（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300, 500L/10a）したところ、散布後 1～14 日の最大残留量は 0.39 , 0.18ppm であった。

㉒もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.124, 0.084 ppm であった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 1.00, 2.04 ppm であった。

㉓うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（700, 500～800L/10a）したところ、散布後 7～28 日の最大残留量は 0.97, 1.12 ppm であった。なお、500～800L/10a 散布された 1 例については、適用範囲内で試験が行われていない。

㉔おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布（625, 500L/10a）したところ、散布後 1～14 日の最大残留

量は1.08, 1.96 ppmであった。

㉕ぶどう(果実)

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後14～56日の最大残留量は0.506(大粒種), 1.43(小粒種) ppmであった。

㉖かき

かき（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400, 500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppmであった。

㉗茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppmであった。

茶（浸出液）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppmであった。

㉘いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株、定植時植穴処理土壌混和として1回用いたところ、混和後62～104日の最大残留漁は0.22, 0.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉙あんず

あんず（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（556, 500L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.72, 1.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉚れんこん

れんこん（根）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、散布として計3回用いたところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

れんこん（根茎）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm

であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉛いんげんまめ

いんげんまめ（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 244L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉜あずき

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.09, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉝ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～21日の最大残留量は0.33, 0.07 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉞アスパラガス

アスパラガス(若茎)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.10, 0.24 ppmであった。

㉟リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200～230, 238 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は7.96, 6.67 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊱サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150～200, 195L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は9.99, 4.41 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊲えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（定植時植溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200,

300L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.69, 0.26 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊳にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（200L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 6.18, 1.42 ppm であった。

㊴ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400, 500L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.64, 0.58 ppm であった。

㊵すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（500, 400L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.10, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊶ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300～400L/10a）したところ、散布後 1～14 日の最大残留量は 0.66 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1～14 日の最大残留量は 0.90 ppm であった。

㊷にがうり

にがうり（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（250, 180L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.28, 0.16 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊸チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後 14 日の最大残留量は 0.16, 0.85 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊹みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（40～150, 227.8L/10a）したところ、散布後 7～14 日の最大残留量は 1.07, 2.46 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊺おくら

おくら（果実）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（200, 100～150L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.36, 0.30 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊻マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（320L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.06 ppm であった。

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（320L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.06 ppm であった。

㊻いちじく

いちじく（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.27 ppm であった。

いちじく（果実）を用いた作物残留試験(1 例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（200L/10a）したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.07 ppm であった。

㊼あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として 1 回、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.59, 0.96 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊽わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2 例)において、0.5%粒剤を 6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として 1 回、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3～14 日の最大残留量は 0.13, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙１を参照。

注１）最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年８月７日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注２）経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注３）だいず（乾燥子実）の圃場Ｂにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

注４）夏みかんの果実については各試験区の果肉／果皮重量比を用いて算出している。

７．乳汁への移行試験結果

乳牛２頭に対し、クロチアニジン14mg/頭/日を朝の搾乳直後に７日間連続して経口投与した。投与開始日、投与開始後１、３及び７日、最終投与後１、３及び５日に、搾乳機を用いて１日に２回搾乳し、同一日の試料を十分に攪拌し、分析試料としてクロチアニジン含量を測定したところ、いずれの試料においても、残留は検出されなかった。（検出限界0.01ppm）

８．ＡＤＩの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第１項第１号の規定に基づき、平成17年10月４日付厚生労働省発食安第1004001号及び同法第24条第２項の規定に基づき、平成18年７月18日付厚生労働省発食安第0718028号により食品安全委員会あて意見を求めたクロチアニジンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：9.7 mg/kg体重/day
（動物種）　ラット
（投与方法）　混餌投与
（試験の種類／期間）慢性毒性/発がん性併合試験／２年間
安全係数：100
ＡＤＩ：0.097 mg/kg体重/day

９．諸外国における状況

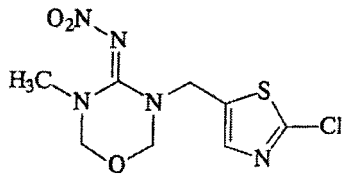
コーデックス、米国、カナダ、欧州連合（ＥＵ）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国及びカナダで、とうもろこし、なたね、乳等に基準値が設定されている。

１０．基準値案

（１）残留の規制対象

クロチアニジン

ただし、クロチアニジンは、同じく殺虫剤であり、農薬として登録・使用がなされているチアメトキサム（平成 16 年 8 月 3 日付厚生労働省発食安第 0803001 号及び平成 18 年 7 月 18 日付厚生労働省発食安第 0718002 号により、食品安全委員会に意見聴取中）の代謝物でもあり、チアメトキサムの使用によるクロチアニジンの残留が認められている。基準値案は、クロチアニジン使用によるクロチアニジンの残留の他、チアメトキサム使用由来のクロチアニジンの残留も含め、設定した。



チアメトキサム

なお、米国等の基準にあっては、チアメトキサムの基準の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、食品衛生法上はチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とする。

（２）基準値案

別紙 2 のとおりである。

注）クロチアニジン使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績と、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績がある場合、双方共に同一作物に使用された場合の最大残留量を考慮して定めた。記載のある作物残留試験成績のうち、右側の欄に示した試験成績（チアメトキサム由来クロチアニジン作物残留試験成績）は、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの残留値を示したものである。

（３）暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のクロチアニジン使用によるクロチアニジン及びチアメトキサム使用によるクロチアニジンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1 日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量（ＴＭＤＩ））のＡＤＩに対する比は、以下のとおりである。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。詳細な暴露評価は別紙 3 参照。

	推定摂取量／ＡＤＩ（%）注)
国民平均	16.5
幼小児（1～6 歳）	31.7
妊婦	14.0
高齢者（65 歳以上）	16.7

注）TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

（4）本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

（5）クロチアニジンの基準値については、本物質がチアメトキサムの代謝物でもあることから、現在食品安全委員会で行っているチアメトキサムの食品健康影響評価の結果を踏まえ、今後必要に応じ見直しの検討を行うものとする。

（別紙１）

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量（ppm）
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲※ （玄米）	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.134(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.104(1+3回,13日)(#)
稲※ （玄米）	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キロ粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:<0.004(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.026(1+3回,13日)(#)
稲※ （玄米）	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.048(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.023(1+3回,13日)(#)
稲※ （玄米）	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.02(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,14日)(#)
稲※ （玄米）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.09(2+3回,14日)(#)
稲※ （玄米）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.14(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.12(2+3回,21日)(#)
稲※ （玄米）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.01(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.02(2+3回,21日)(#)
稲※ （玄米）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.13(2+3回,14日)(#)
稲※ （玄米）	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.04(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.16(2+3回,14日)(#) 圃場C:0.17(2+4回,28日)(#)
稲※ （玄米）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.10(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.07(2+3回,14日)(#)
稲 （稲わら）	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.11(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.132(1+3回,13日)(#)
稲 （稲わら）	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キロ粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.118(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.176(1+3回,13日)(#)
稲 （稲わら）	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.12(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.142(1+3回,13日)(#)
稲 （稲わら）	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.72(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.26(1+3回,14日)(#)
稲 （稲わら）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.28(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.75(2+3回,14日)(#)
稲 （稲わら）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.18(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.78(2+3回,21日)(#)
稲 （稲わら）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.17(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.16(2+3回,21日)(#)
稲 （稲わら）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:1.02(2+3回,14日)(#)
稲 （稲わら）	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.81(2+3回,21日)(#) 圃場B:2.57(2+3回,14日)(#) 圃場C:2.28(2+4回,14日)(#)
稲 （稲わら）	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:1.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.54(2+3回,14日)(#)
だいず※ （乾燥子実）	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回, 7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
だいず※ （乾燥子実）	2	0.5%粒剤＋ 0.5%H粉剤DL	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4kg/10a	1+4回 1+3回	7,13,20日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+4回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)($)
だいず※ （乾燥子実）	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2500倍散布 200, 250L/10a	1+3回	14,21日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ （塊茎）	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種前播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.002(1+3回,14日) 圃場B:0.016(1+3回,14日)
ばれいしょ （塊茎）	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	植付時植溝処理土壌混和 6kg/10a 2,500倍散布 200, 250L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ （塊茎）	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	植付時植溝処理土壌混和 2g/株 1,000倍散布 25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.03(1+3回,14日) 圃場B:0.01
かんしょ （塊根）	2	0.5%粒剤	定植時作条処理土壌混和 9kg/10a	1回	116日 104日	圃場A:<0.01(1回,116日) 圃場B:<0.01(1回,104日)
てんさい （根部）	2	16.0%水溶剤	100倍 定植時苗床灌注 1L/冊	1回	160,167,174日 161,168,175日	圃場A:<0.01(1回,160日) 圃場B:<0.01(1回,161日)
てんさい （根部）	2	20.0%フロアブル+ 16.0%水溶剤	原液種子コーティング 489mL/1ユニット +100倍定植前苗床灌注 1L/冊 +2000倍散布 200, 500L/10a	1+4回	14,21,30日 14,21,28日	圃場A:<0.01(1+4回,14日)(#) 圃場B:0.02(1+4回,14日)(#)